

森永ひ素ミルク中毒事件の概要等について

1. 事 案

昭和30年6月～8月、西日本の各府県（岡山、広島、京都、大阪、兵庫など）において、森永乳業株式会社徳島工場の製造によるMF印ドライミルクに、ひ素等の有害物質が混入したことにより、人工栄養の乳幼児の間に原因不明で発熱、頑固な下痢、汗疹様発疹、皮膚の異常などを主症状とした疾病が続発した（平成24年3月31日現在で被害者数は13,432名。）。

2. 「三者会談」

被害者及びその親等は、「森永ミルク中毒の子どもを守る会」（略称「守る会」）を組織し、昭和48年、国・森永乳業に対して民事訴訟を提起した。

昭和48年9月、訴訟とは別に厚生大臣が、「守る会」、「森永乳業」及び「国」の三者による話し合いを提起し、第5回の三者会談（昭和48年12月23日）において、三者間で合意が成立し、以後は、これに沿って対策が講じられることとなった。なお、これに伴い「守る会」の取り下げにより、昭和49年5月民事訴訟は終結した。

現在は「(財)ひかり協会」が加わり、平成24年8月までに45回の「三者会談」が開かれている。

3. (公財) ひかり協会

被害者の救済のため、三者会談での合意に沿って、昭和49年4月25日財団法人ひかり協会（現在は公益財団法人）が設立され、被害者救済のために被害者の健康管理や治療養護、生活手当等の支給、保護育成等の事業を実施している。

また、事業費等については、「三者会談」における合意に基づき、被害者の救済及び(公財)ひかり協会の運営に要するすべての経費は、森永乳業(株)が負担（平成23年度は約17億円を負担。）。

4. 本件訴訟の概要

原告（1名）が、生活手当の額が低いとして、岡山地方裁判所に提訴。これまで3回の弁論が開かれている。